

## 1 学校教育目標

人間尊重の精神を基調に、自他の生命を尊び、豊かな知性と感性を備えるとともに、国際感覚をもった心身ともにたくましい、人間性豊かな児童の育成を目指し、次の目標を設定する。 ○よく考え がんばる子 ○ 明るく思いやりのある子 ○ 強い体で 元気な子

## 2 めざす学校像、児童・生徒像、教師像

|         |                                                                                                                 |
|---------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| ○学校像    | ○子どもにとって学びがいのある学校 ○教師にとって働きがいのある学校 ○保護者・地域にとって誇りにできる学校                                                          |
| ○児童・生徒像 | ○自分の成長を実感し、生涯学び続けようとする子ども<br>○自他の違いを多様性として認め、それを「よさ」として活かしていこうとする子ども<br>○人や社会のために役立つ働きをし、自らよりよい関係性や社会を作ろうとする子ども |
| ○教師像    | ○授業の質を高め、常に学び続ける教師。<br>○子どもの「よさ」を積極的に見出し伸ばしていこうとする教師。<br>○保護者・地域と共によりよい学校づくりを目指す教師。                             |

## 3 学校の現状及び前年度の成果と課題

昨年度は、児童の学力定着と向上について「授業第一」という方針を全職員での共通理解のもとで「分かる授業づくり」を目指した。月に何度か行う教員間での授業公開と校内研究の実施やICTツールの活用を含めた分かる授業への工夫など指導力の向上や授業改善に向けた取り組みをおこなってきた。当然 ICT 活用等も含めての補充体制も組んでいるが、初めに補充ありきの発想を取り除き、学校の本分ともいえる授業の1コマ1コマを大切にすることを立てた。そして単に受動的な姿勢ではなく、「なぜ」という課題意識と解決能力をもった児童の育成を目標に、それに応え得る教員の授業力向上を図るための各種取り組みをおこなった。本年度も同様に自ら考え実践できる主体性「なぜを考え納得しようとする探求心」を備えた児童の育成を目指す。

この「なぜを理解して納得の上で行動する」態度は、生活面でも共通している。落ち着いた学習環境を育むためにも、児童の規範意識と実践力を身に付けさせることは重要である。児童は、次の時代を担う人としての発達途上にある。それゆえに発生する問題や言動に指導を要することは必然と言える。そこで大切なことは、学校と家庭との共通認識と連携である。そのためにも学校、学年学級から情報を常に発信し続けて信頼関係の構築も図っていききたい。学校または家庭からの一方通行ではなく、相互の信頼関係の成立する学校づくりを目指したい。

## 4 重点的な取組事項

|   | 内 容          | 実施期間（年度） R:令和 |     |     |     |     |
|---|--------------|---------------|-----|-----|-----|-----|
|   |              | R 5           | R 6 | R 7 | R 8 | R 9 |
| 1 | 学力向上アクションプラン | ○             | ○   | ○   | ○   | ○   |
| 2 | 豊かな心の育成      | ○             | ○   | ○   | ○   | ○   |
| 3 | 体力向上         | ○             | ○   | ○   | ○   | ○   |
|   | 幼保小中連携       | ○             | ○   | ○   |     |     |



| 重点的な取組事項－１      |                  | 学力向上アクションプラン    |              |                                                |                     |                                 |             |
|-----------------|------------------|-----------------|--------------|------------------------------------------------|---------------------|---------------------------------|-------------|
| A 今年度の成果目標      |                  | 達成基準<br>(目標通過率) |              | 実施結果<br>(通過率結果)                                |                     | コメント・課題                         | 達成度<br>◎○△● |
| 学習修得率（個人・集団）の向上 |                  | 学力調査平均通過率 80%以上 |              | 自己評価の際に記入                                      |                     |                                 |             |
| B 目標実現に向けた取組み   |                  |                 |              |                                                |                     |                                 |             |
| 新規・継続           | アクション<br>プラン     | 対象学年<br>実施教科    | 頻度・<br>実施時期  | 具体的な取り組み内容<br>(誰が、何を、どのように)                    | 達成確認<br>方法          | 達成目標<br>(＝数値)<br>(いつ・何を・どの程度)   | 自己評価の際に記入   |
| 1 継続            | 授業の充実            | 全学年<br>・全教科     | 毎日<br>・年間    | 授業第一として「足立スタンダード」「虎の巻」に即した汎用性と独自性の均衡を持たせた授業の展開 | 各種調査<br>単元テスト       | 区調査通過率 80%以上<br>単元テスト平均 80ポイント超 |             |
| 2 継続            | SP 表の分析<br>と個別対応 | 全学年<br>・国算      | 各調査<br>・テスト毎 | テスト結果から全体の傾向を見出した教師自身の授業診断と児童データのポートフォリオ化      | 学力調査等による個別の変動率の検証   | 年度当初との比較による弱点領域の向上              |             |
| 3 継続            | ICT の活用<br>と定着   | 全学年<br>・全教科     | 毎日・学校<br>と家庭 | 授業の補助や補充、家庭学習用の AI ドリル。授業ツールとしての日常的活用          | 学校評価や振り返りから見る児童の変容  | 授業診断で 80%超の児童からの肯定的評価           |             |
| 4 継続            | 授業改善への研究と<br>研修  | 全教員             | 年間           | 分かる授業の構築に向けた研修や校内研究等教職員の学びの充実                  | 児童による授業評価           | 各種研究（公開）授業を年間 12 回以上実施          |             |
| 5 継続            | 学習環境の整備          | 全学年             | 年間           | 効果的な 1 日の時程設定と教室等学校施設の整美                       | 2 年生以上について前年度との比較検討 | 調査やテスト等で学習成果定着率 80%超            |             |
| 6 継続            | 学校図書館の活用         | 全学年<br>全教員      | 年間           | 学校図書館利活用推進校として書籍・図書館の持つ学習効果を探求する               | 児童の図書への意識変容         | 図書館使用状況各種コンクールへの参加入選数           |             |
| 7 新規            | 外国語（英語）教育        | 中・高学年           | 年間           | 会話を中心とした英語活動を通して、語学への興味関心や意識、コミュニケーション力を高める    | 振り返りシートや授業評価        | 児童の肯定的評価が 80%超                  |             |

自己評価の際に記入

| 重点的な取組事項－ 2                |                                | 豊かな心の育成                                                                                            |           |         |     |
|----------------------------|--------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------|---------|-----|
| A 今年度の成果目標                 |                                | 達成基準                                                                                               | 実施結果      | コメント・課題 | 達成度 |
| 人権意識の向上と人道的実践力を培う          |                                | 学校評価における児童・保護者・教員三者の肯定的評価が 80％超                                                                    | 自己評価の際に記入 |         |     |
| B 目標実現に向けた取組み              |                                |                                                                                                    |           |         |     |
| 項目                         | 達成基準                           | 具体的な方策                                                                                             | 実施結果      | コメント・課題 | 達成度 |
| 人権尊重の意識を定着させる              | ・年度末学校関係者評価における児童からの肯定意見が 80％超 | ・人権教育プログラムを活用した日常での指導の充実。<br>・いじめアンケートからの人間関係の把握と改善への取り組み。<br>・道徳指導やワークショップ、生き方や人権に関わる講演会、体験教室の充実。 | 自己評価の際に記入 |         |     |
| 自己肯定感を育み他者を認める意識を培う        |                                | ・QU による集団や個別の分析と相談等の対応支援。<br>・係、委員会、当番等の特活面での評価。<br>・明確な学習目標を提示し、その達成度への指導評価。<br>・S C による全員面接。     |           |         |     |
| 他者との関りを通して自己の発見と認識を促す      |                                | ・縦割り異年齢交流「なかよし班」の実施。<br>・特別支援学級との日常的な交流。<br>・幼稚園や老人介護施設との交流、町会行事への関り。<br>・迅速、適切な生活指導。              |           |         |     |
| 自分の関わる環境に目を向ける意識と実践力を身に付ける |                                | ・SDGs への取り組み。<br>・クリーン作戦やペットボトルキャップの回収。<br>・外部団体と連携した募金活動。<br>・奉仕活動やボランティアへ活動の実践                   |           |         |     |

| 重点的な取組事項－ 3              |                                     | 体力向上                                                                                        |           |         |     |
|--------------------------|-------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------|-----------|---------|-----|
| A 今年度の成果目標               |                                     | 達成基準                                                                                        | 実施結果      | コメント・課題 | 達成度 |
| スポーツに親しみ健康な体づくりと安全な生活の実践 |                                     | 学校評価における児童・保護者・教員三者の肯定的評価が 80％超                                                             | 自己評価の際に記入 |         |     |
| B 目標実現に向けた取組み            |                                     |                                                                                             |           |         |     |
| 項目                       | 達成基準                                | 具体的な方策                                                                                      | 自己評価の際に記入 |         |     |
| 健康や安全を意識できる態度の育成         | ・年度末学校関係者評価における児童の体育に関する自己評価が 8 0％超 | ・体育授業を通して体の動かし方を理解し、安全への配慮ができるようにする。<br>・他の児童との活動内でルールや配慮を意識できる姿勢を育む。                       |           |         |     |
| スポーツに親しむ態度を培う            |                                     | ・体力調査に向けての要点を押さえた練習。<br>・アスリートを招いたスポーツ体験の実施。<br>・やること、観ることの両面を通したスポーツへの理解                   |           |         |     |
| 日常的に取り組む体力向上             |                                     | ・全学年が交流しながら遊びに取り組む「こちランド」の通年実施。<br>・季節ごとに取り組みが変わる体育朝会。<br>・外遊びの励行<br>・体育授業での技能向上と規律や思いやりの育成 |           |         |     |

自己評価の際に記入